



HES スターリング城オーディオガイド

アーガイル・アンド・サザーランド・ハイランダーズ連隊博物館 改訂版 ストップ43. アーガイルアンドサザーランドハイランダー 連隊 ミュージアム 1階ギャラリー入口 GF-01 - 連隊の誕生

アーガイル・アンド・サザーランド・ハイランダーズ連隊博物館へようこそ。ここでは、200年以上にわたってスターリング城と密接な関係を保ってきた、スコットランドの偉大なハイランド連隊の一つ、アーガイル・アンド・サザーランド・ハイランダーズの物語をご覧ください。アーガイル・アンド・サザーランド・ハイランダーズ連隊は2006年まで、ここに本部を置いていました。

アーガイル連隊は、1881年に第91アーガイルシャー・ハイランダーと第93サザーランド・ハイランダーという2つの連隊が合併してできた連隊です。これらの元になった連隊は1790年代に創設されましたが、スターリングシャー民兵とは1639年まで遡る密接なつながりがあります。

1873年から1964年まで、城全体が訓練所として使用され、そこからアーガイル隊が世界各地に派遣されました。

博物館には、この有名な連隊の輝かしい歴史を物語る制服、武器、装備、美術品、写真の宝庫があり、兵士やその家族の個人的な物語も数多く展示されています。階段を上り、最初のギャラリーにお入りください。ミュージアム内を移動する際には、各ギャラリーのオーディオナンバーにご注目ください。時間が限られている場合は、1階のギャラリーで概要を知ることができますが、全貌が明らかになる上の階のギャラリーもお見逃しなく。

1階ギャラリー GF-03 - 英国への奉仕

このギャラリーでは、225年以上にわたるアーガイル隊の王室への奉仕を反映した主要なハイライトをご紹介します。1881年、第91アーガイルシャー・ハイランダーズと第93サザーランド・ハイランダーズの2連隊が統合され、アーガイル&サザーランド・ハイランダーズが誕生しました。そのハイランドの伝統とゲール文化は、現在に至るまでアーガイルの戦場での活躍に影響を与えています。第一次世界大戦と第二次世界大戦では、プロの正規軍兵士のほかに、準軍事予備軍も大きな貢献をしました。

1階ギャラリー GF-04 - 我らがアーガイル家族

このギャラリーは、自らを大切にし、思い返すアーガイルの伝統を讃え、アーガイルが世界中の他の戦闘組織と密接な関係を築いてきたことを紹介します。アーガイルは、戦場ではタフで妥協を許さないが、非常に温厚な性格で、共感力があり、独特のユーモアのセンスを持っている。他の連隊と戦場での経験を共有することで、相互の尊敬と同盟の形成につながりました。また、スコットランド人のディアスポラ、つまり、「スコットランド人やスコットランドのコミュニティが世界中に広がっていること」による関係性も築かれています。

1階ギャラリー FF07-01 - 我らがスコットランドのルーツ

このギャラリーでは、連隊とその募集地域との強い絆をご紹介します。また、両大戦において、志願兵である義勇兵士が果たした重要な役割についてもご理解いただければと思います。アーガイル連隊の歴史は、18世紀から19世紀にかけてスコットランドが経験した動乱と混迷の時代を反映しています。連隊は、ハイランダーが仕事を求めてグラスゴーやその周辺に南下し地方の過疎化が進んだ時代に誕生しました

。1881年、連隊はサザーランド、ケイスネス、ロスシャーを採用の場として失いましたが、ハイランド・スピリットは強く残っていました。

1階ギャラリー FF-07A - 囚われの身

死や障害に続いて、捕虜になることは兵士にとって最大の恐怖となります。このギャラリーでは、捕虜となったアーガイルの物語を紹介し、捕虜の違いによる待遇の違いを学びます。時には大勢のアーガイルと一緒に捕らえられたこともありました。ほとんどの人が捕虜になったままでした。中には巧みな脱走方法を見つけた者もいましたが、全員が成功したわけではありません。捕虜になった兵士は、肉体的、精神的な苦難、隔離、無力感に直面します。彼らの家族は、彼らが活着しているかどうかともわからないかもしれません。

1階ギャラリー GR FF-08 - 生き続ける

このギャラリーでは、戦争や兵器の変化が戦う兵士に与えた影響について学ぶことができます。医学や傷の治療における軍事的な進歩は、すぐに民間での治療に適応されました。兵器の性能もどんどん向上していますが、アーガイルにとって負傷が病気よりも大きな脅威となったのは、第一次世界大戦以降になります。医学の進歩とともに、衛生管理の重要性を理解することで、このような変化をもたらしました。

1階ギャラリー FF-09 - アーガイルの精神

アーガイル「ジョックス」の気質は、私たちの兵士のものとして知られていますが、戦争によって形作られただけではありません。連隊は、日々の活動に反映されていた素晴らしい伝統を維持していました。これらを通して、私たちのエスプリ、連隊の誇りや歴史が培われたのです。訓練、スポーツ、儀式など、作戦行動以外の時間もアーガイル・ジョックスの時間で満たされました。このギャラリーでは、私たちの日常生活や伝統、音楽、信仰をより深くご紹介します。また、アーガイルの家族がどのような生活をしていたかについてもご紹介します。

1階ギャラリー FF-10 - 戦場では恐れ知らず

このギャラリーでは、連隊の将校と兵士の備える特性をご紹介します。彼らのリーダーシップと誠実さ、勇気と規律、忠誠心、勇気、英国へ奉仕するための私心のない献身をご体験ください。第91連隊のモットー、**Ne Obliviscaris**「忘れるべからず」は、9000人以上のアーガイル隊員が命をかけて究極の犠牲となったことを認め、第93連隊のモットーである**Sans Peur**「恐れるべからず」は、バラクラヴァの戦いでシン・レッド・ラインを形成したことで有名なアーガイルズの220年にわたる世界での活躍を如実に反映しています。英国の利益を守るためのこの献身性は、アーガイルの後継連隊であるスコットランド王立連隊にも受け継がれています。

1階ギャラリー FF-11 - 生き続ける我らの遺産

2003年に、一個大隊を持つ歩兵連隊を大型連隊に統合することが決定されました。2006年、アーガイル・アンド・サザーランド・ハイランダーズ第1大隊は、スコットランド王立連隊第5大隊（5SCOTS）となりました。これはアーガイルの長い歴史の中で、進化の最終形態となりました。2012年、さらなる国防費の削減により、大隊は中隊に縮小されました。現在、彼らは、バラクラバ中隊としてエジンバラを拠点としていますが、今も「アーガイル・アンド・サザーランド・ハイランダーズ」の呼称を保持し、アーガイルの連綿と続く伝統を守っています。

1階ギャラリー FF-12 - 将校集会所

アーガイルズ将校集会所は、下級将校の「家」であり、訪問者を楽しませる場所でした。アーガイルは、集会所の友好的で楽しい雰囲気とそのおもてなしによって常に注目され、また誇りを持っていました。訪問者は、集会所の状態やその円滑な運営によって、大隊のことをすぐに判断することができるでしょう。将校は集会所の維持管理に責任を持ち、集会所が連隊の目玉であり続けるようにした。

もしこのギャラリーが都合により閉鎖されている場合は、お詫び申し上げます。

2階ギャラリー SF-15 – 安置

伝統的に、カラーと呼ばれる連隊旗は戦場での兵士の集合場所を示していました。それらは連隊のアイデンティティの中心をなすものであり、その歴史の中で兵士たちをつないでいます。この連隊旗には、連隊にとって特に意義深い41の軍事作戦における功績章が縫い付けられています。第93連隊は「バラクラバ」戦功章を授与された唯一の歩兵連隊となっています。

アーガイルには、連隊旗が2つあり、まとめて「スタンド」と呼ばれています。その一つ、王旗もしくは女王旗(その時の君主によって変更になります)は、英国国旗を地としたものになります。アーガイルの連隊旗は淡い黄色地で、折り返されて露出した軍服の裏地の色と同じ色になっています。シルクでできており、手縫いによる刺繍が施されています。

このフロアが都合により閉鎖されている場合は、お詫び申し上げます。